

最近刊行の二大出版物

帝都復興事業大觀と本邦海工構造物設計大輯

帝都復興事業大觀

何事も安物流行の世の中に高價なものを出版しては十呂盤が持てない。十呂盤が持てないのを百も承知で刊行したとしか思はれない大出版の雄なるものとして『帝都復興事業大觀』上下二冊を見るものである。

四六倍判数百頁の全アート紙に記事の要領を得た所と云ひ、寫眞版の豊富な事と云ひ色刷地圖や統計の多數なる事と云ひ實に壯觀極まるものである。

印刷製本の美と云ふだけでも藏書として推賞するに足るが、それよりも内容の充實である古代の江戸時代から現代の復興帝都に至るまでの資料を能くも斯く蒐集したのもであると驚くの外はない。それは昨年日比谷の一角に市政會館の新築が成つた時に、市政調査會館の主催で復興展覽會が開かれた、誰しもあの展覽會を見た程の人は圖面や地圖や模型や、寫眞や統計其他の材料に至るまで趣味的に配列した資料に感服したのである。其等の資料が印刷の形式で現はされる限りの努力を以て此の二冊の書物となつたのである。故に本書は讀むよりも見る書物である。單に大震災の因果史のみではない、先づ巻頭に慶長年間江戸の圖から現在の東京に至るまで色刷地圖八枚を以て變遷を示し、頁を進むるに従ひ趣味的な寫眞と色刷圖面とが贅澤すぎる程に挿まれてゐる。地震や火災に就ても昔からの日本の古い參考圖面をスツカリ網羅してゐる。此等の内容を此上に到底記す事は出来ないが、此等の資料が如何に價値あるものであるかと言ふ事は、資料出品者の名に於て權威を認め得ると思ふ、それは次の諸官廳が永年の間に蒐集整頓したものである。

東京市文書課、横浜市震災記念館、東大理學部、震災豫防調査會、東大地震學教室、陸地測量部、内務省、警視廳、大藏省、横濱市、逓信省、復興局、東京府、東京鐵道局其他多數から貴重な資料、特にそれが圖面、寫眞等の多くであるから、都市の有凡ゆる設備と計畫に參考ならざるはないのである。

要するに本書二冊は昨年盛會を呈した、復興展覽會其儘な書齋に運んだと同様の價値である。定價は上下二巻で金貳拾圓であるが、それは殆んど實費的な値である。都市に關する技術家の永久の藏書であ

る。本書は日本統計普及會の出版であるが留書送料二冊にて金五十六錢にて工事畫報社からも取次ぐ事になつてゐる。

本邦海工構造物設計大輯

海の中の工事と云ふものは中々無圖ヶしいものである。些つとばかしの經驗で一切をやつつけようなどと云ふ事は實に危險至極な事である。海ばかりではないが水中工事と云ふと陸上の工事に考へ及ばぬ微妙な處がある。陸上工事で經驗のある人が水中工事に臨んで思ひも寄らぬ失敗を繰返してゐる實例が幾らもある。

それ等の失敗の多くは設計上の不備にもよるが、先づ最初の調査と施工の不完全から來るものである『廣井博士が小樽港の第一期防波堤工事をする時に十間位造つては其結果を見て其次は多少設計を變へた、而して又十間位造つては其結果を見て次へ進んだ、そんな風に十間位宛で多少設計を變へてゐる。それだけ調査研究に念を入れたものだ』此は元日面會した元の北海道廳土木部長であつた西村保吉氏の談であるが、海の仕事は其位にも無圖ヶしいものである。此の無圖ヶしい海の仕事の構造物も廣井博士以來今日では非常な進歩と發達をした、幾多の經驗から貴重な實例が現はれるに至つた。然し其等の貴重な實例は官廳の文庫に藏されるのみで統一したものを見る事は出来なかつたが、今回内務省の中井愛次氏が之等の編纂をまとめて、多數先輩の推賞の下に港灣協會から出版したものが『本邦海工構造物大輯』である。

内容は斯界の權威たる鈴木雅次博士が周到なる指導校閲をしたものであるから要領を得たる事申すまでもない。

護岸、物揚場、岸壁、繫船壁、棧橋、突堤、浮棧橋等に就て簡單なる木造より、近代的な鐵筋コンクリートの種々なるケーソンに至るまで餘す處なく配列されてゐる。編輯の様式も各頁の圖と説明を長く對照し、一の設計圖の前に構造要旨と設計豫算とを記してゐる。鐵板其他の護岸設計圖には尙ほ計算例をも附記して確實を期してゐる。而して各頁の圖面が大形で頗る鮮明である點は又本書の特色である若し希望と言へば重要な構造物に就ては其使用されてゐる施工所を記入されたならば後年本書を利用するものに取つて實地視察上非常な便宜であると思ふ。要するに今まで類書の少い處へ本書の如き有益なる參考書を編纂された中井氏の勞を多とせざるを得ない。菊倍判 376頁クロス表紙定價金七圓である。書留送料貳拾七錢にて我社からも便宜取次ぐ事になつてゐる。